

参考資料1 子どもと子育て家庭を取り巻く現況

目次

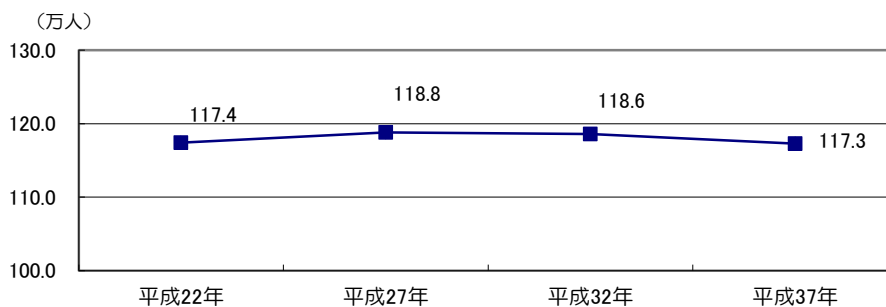
(1) 人口等	72
総人口の推計	72
年齢階層別人口の推計	72
就学前、就学児童数の推移	73
世帯数と平均世帯人員の推計	73
出生数・合計特殊出生率の推移	74
婚姻率と離婚率の推移（人口千対）	75
男女の未婚率	75
初婚年齢の推移	76
高齢出産率の推移	76
10代の人工妊娠中絶率の推移	77
(2) 子どもの貧困	77
貧困率の年次推移（全国）	77
就学援助受給者数・受給率の推移	78
母子・父子世帯数、児童扶養手当受給者数	78
母子・父子世帯の平均世帯人員、年間収入（全国）	78
(3) 障害のある子ども	79
18歳未満の障害児数（手帳所持者数）	79
発達障害にかかる新規相談件数	79
(4) 子どもの遊び場と居場所	80
留守家庭子ども会のクラス数、登録児童数	80
子どもの遊び環境への満足度	80
(5) 児童虐待	82
相談・通告件数	82
18歳未満人口に対する相談・通告件数の割合（人口千対）	82
相談・通告のあった児童の年齢構成	83
子どもの相談窓口	83
(6) 社会的養護	85
児童養護施設在籍者数	85
乳児院在籍者数	85
里親委託児童数、登録里親数	85
ファミリーホーム、自立援助ホーム在籍者数	86

(7) 子どもと親の健康づくり	86
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があると回答した親の割合	86
子育てをされていていららすることが多いと回答した人の割合	86
子育てのことで不安に思ったり、悩んだりすることがあると回答した人の割合	87
子育ての精神的不安を減らすための支援	87
乳幼児をもつ保護者の喫煙率	88
小・中学生の朝食摂取状況の割合	88
(8) 子育て家庭に対する養育支援	89
子育て短期支援事業利用延べ日数	89
ファミリーサポートセンター事業における会員登録数、活動件数	89
常設型オープンスペースの参加者数	90
(9) 教育・保育施設	90
保育園入園希望児童数、入園待機児童数	90
保育園定員及び入園児数	91
幼稚園定員及び入園児数	91
保育園・幼稚園の入園状況	92
(10) 多様な保育サービス	92
延長保育、一時預かり事業、病児・病後児保育、休日保育実施状況	92
(11) 就労	93
年齢階層別の労働力率	93
育児休業取得率	94
共働き等世帯数の推移（全国）	94
母親の就労状況と就労していない母親の就労希望	95
仕事時間、家事（育児）時間、プライベートの生活時間の優先度	95
(12) 安全・安心なまちづくり	96
不審者情報の集計	96
交通事故発生状況（第1当事者のみ）	96
平成25年における交通事故の特徴（死傷者の状態別）	97
(13) いじめ、不登校、非行等	97
いじめ認知件数の推移	97
不登校児童生徒数の推移	98
暴力行為発生数の推移	98
ひきこもり状態の児童生徒数	99

(1) 人口等

広島市の総人口は、平成 22 年以降横ばい状態と予測されます。
年齢階層別人口は、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）が減少し、老年人口（65 歳以上）が増加すると予測されます。

◆総人口の推計

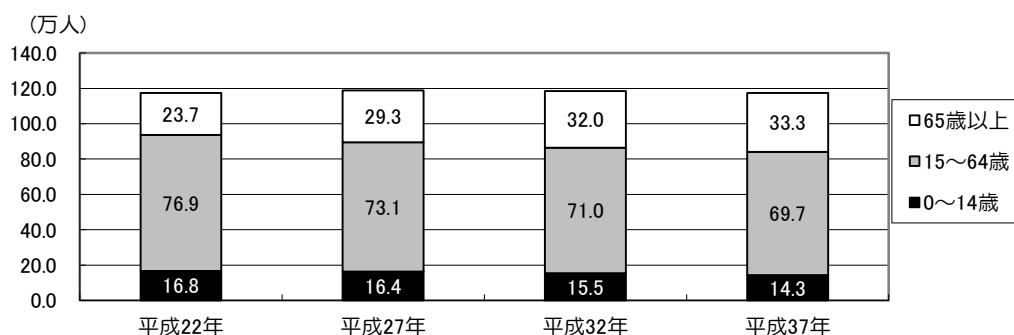


(国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」)(単位：万人)

区分	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年
広島市	117.4	118.8	118.6	117.3

※ 平成 22 年は国勢調査の結果による。

◆年齢階層別人口の推計



(国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」)(単位：万人)

区分	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年
0～14 歳	16.8 (14.3%)	16.4 (13.8%)	15.5 (13.1%)	14.3 (12.2%)
15～64 歳	76.9 (65.5%)	73.1 (61.5%)	71.0 (59.9%)	69.7 (59.4%)
65 歳以上	23.7 (20.2%)	29.3 (24.7%)	32.0 (27.0%)	33.3 (28.4%)
合 計	117.4 (100.0%)	118.8 (100.0%)	118.6 (100.0%)	117.3 (100.0%)

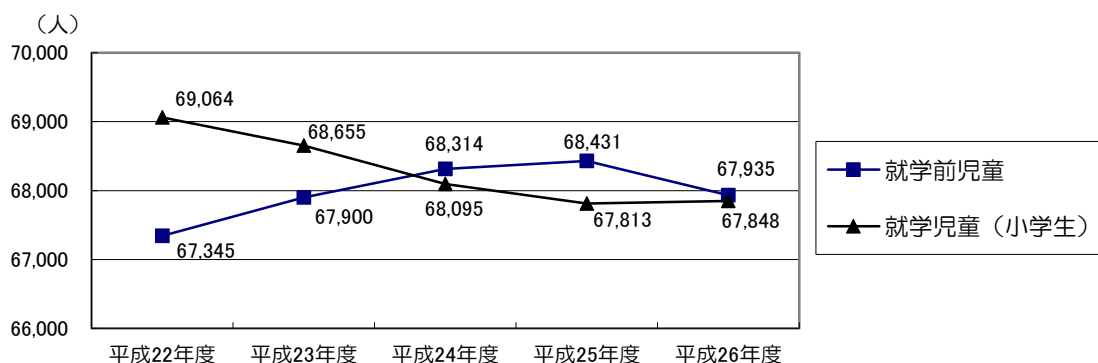
※平成 22 年は国勢調査の結果による。

※ () 内の数値は構成比である。

※表示の単位未満は、四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないことがある。

◆就学前、就学児童数の推移

就学前児童数は、平成 22 年度以降増加傾向にありましたが、平成 26 年度は減少しています。就学児童数（小学生）は、平成 22 年度以降減少傾向にありましたが、平成 26 年度はわずかに増加しています。



(広島市住民基本台帳) (単位：人)

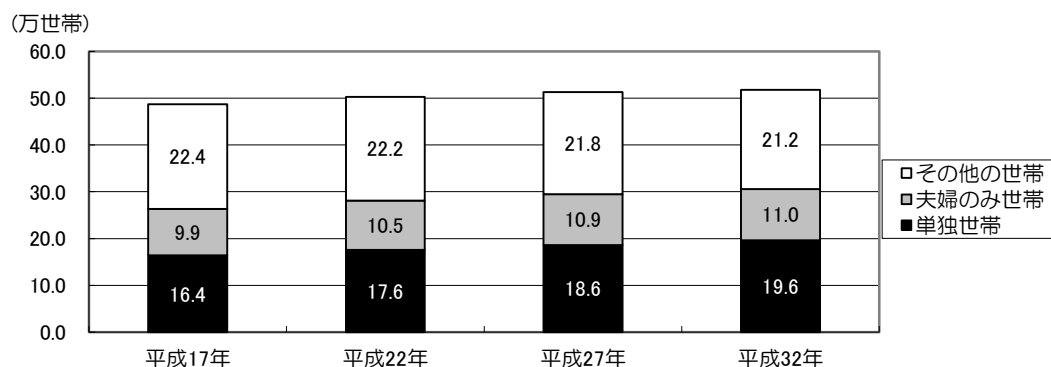
区分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
就学前児童	67,345	67,900	68,314	68,431	67,935
就学児童 (小学生)	69,064	68,655	68,095	67,813	67,848

※各年度 4 月 1 日現在。外国人登録人口を含む。

◆世帯数と平均世帯人員の推計

一般世帯数（施設等の世帯を除く世帯数）は、平成 17 年の 48 万 7 千世帯から平成 32 年には 51 万 8 千世帯になるものと予測されます。

平均世帯人員は、横ばい状態と予測されます。



(第 5 次広島市基本計画) (単位：万世帯、人)

区分	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年
一般世帯	48.7	50.4	51.3	51.8
単独世帯	16.4	17.6	18.6	19.6
夫婦のみ世帯	9.9	10.5	10.9	11.0
その他の世帯	22.4	22.2	21.8	21.2
総人口を一般世帯数で除いた場合の平均世帯人員	2.4	2.3	2.3	2.3

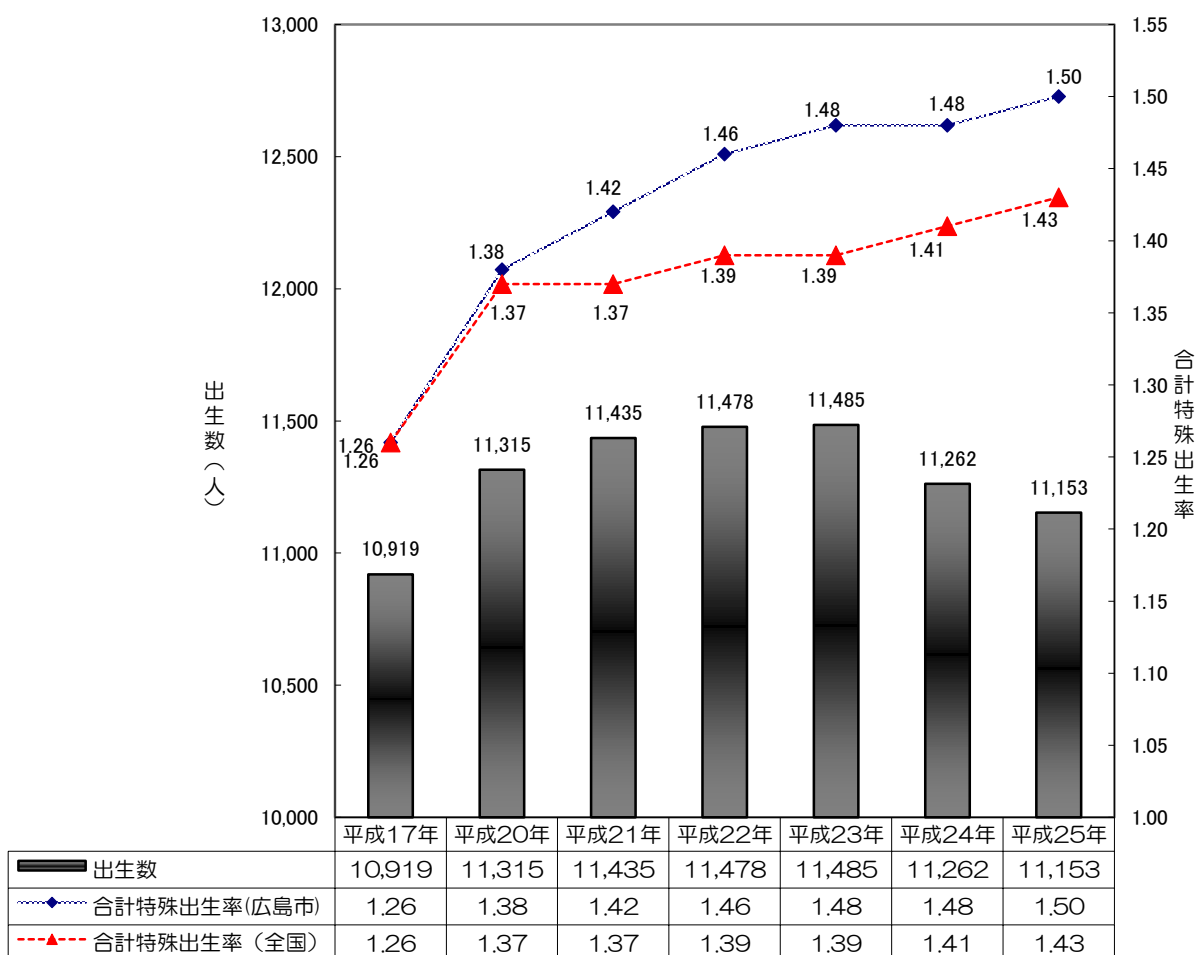
※平成 17 年は国勢調査の結果による。また、各年の基準は 10 月 1 日である。
 ※表示の単位未満は、四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないことがある。

◆出生数・合計特殊出生率の推移

広島市の出生数は、平成17年以降上昇傾向にありましたが、平成24年に減少に転じ、平成25年は11,153人となっています。

一方で、合計特殊出生率（注）は、平成17年以降上昇しており、平成25年は1.50と、全国値の1.43を上回っています。

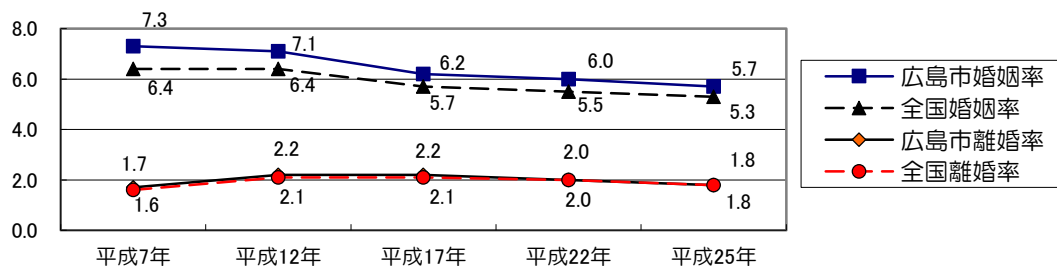
注：その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当するもの



(人口動態統計)

◆婚姻率と離婚率の推移（人口千対）

広島市の婚姻率は、平成7年以降下降傾向にあり、平成25年は5.7となっています。離婚率は、平成7年以降ほぼ横ばいで推移しており、平成25年は1.8となっています。



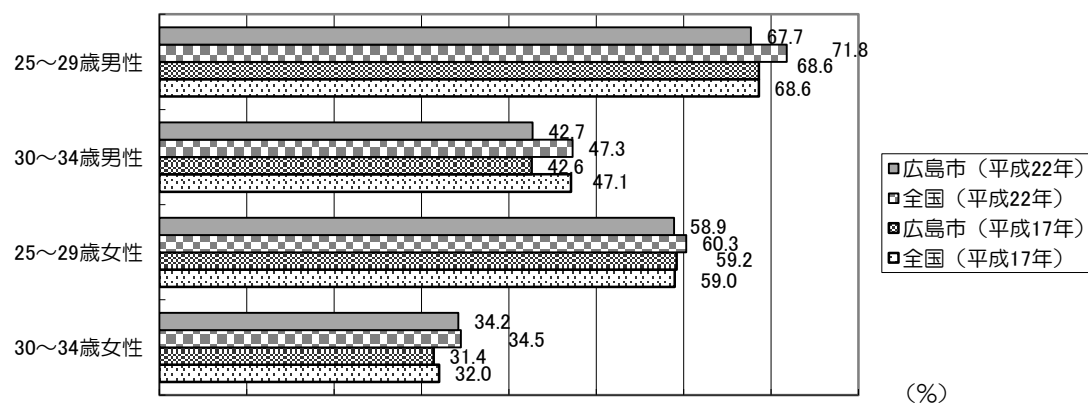
（人口動態統計）

区分		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成25年
婚姻率 （人口千対）	広島市	7.3	7.1	6.2	6.0	5.7
	全国	6.4	6.4	5.7	5.5	5.3
離婚率 （人口千対）	広島市	1.7	2.2	2.2	2.0	1.8
	全国	1.6	2.1	2.1	2.0	1.8

◆男女の未婚率

広島市の平成22年の未婚率は、男女ともに全国値より低く、25～29歳の年齢階級では、平成17年の値より低くなっています。

30～34歳の年齢階級では、男性は平成17年と同水準ですが、女性は平成17年と比べて高くなっています。



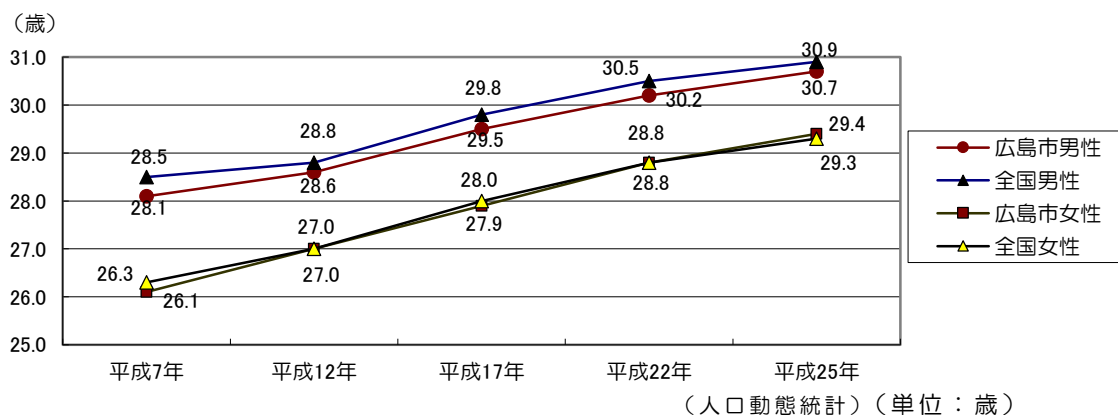
（平成22年国勢調査）（単位：％）

区分		男性		女性	
		25～29歳	30～34歳	25～29歳	30～34歳
平成22年	広島市	67.7	42.7	58.9	34.2
	全国	71.8	47.3	60.3	34.5
平成17年	広島市	68.6	42.6	59.2	31.4
	全国	71.4	47.1	59.0	32.0

◆初婚年齢の推移

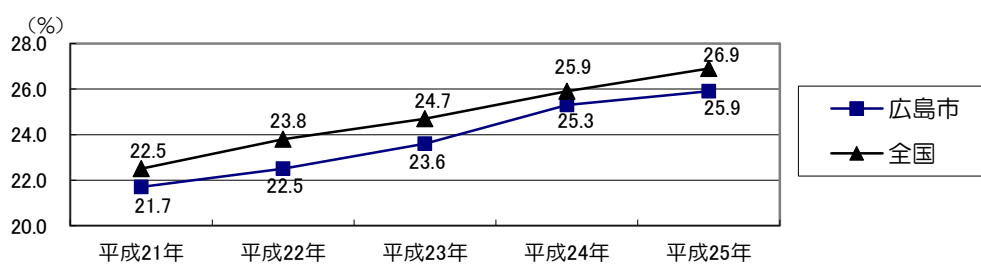
広島市の男性平均初婚年齢は、平成7年は28.1歳でしたが、年々上昇し、平成25年は30.7歳となっています。

また、女性平均初婚年齢は、平成7年は26.1歳でしたが、年々上昇し、平成25年は29.4歳となっています。



◆高齢出産率(注)の推移

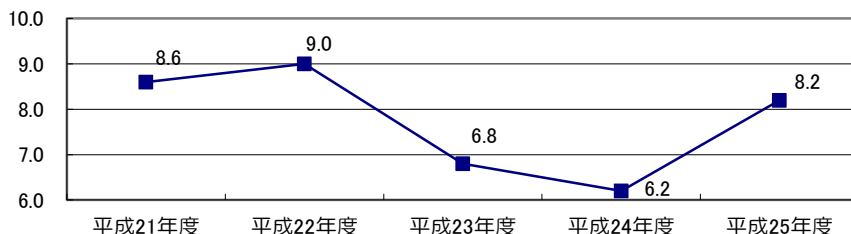
広島市の35歳以上の出産の率は、平成21年は21.7%でしたが、年々上昇し、平成25年は25.9%となっています。



注：35歳以上の出産の率

◆10代の人工妊娠中絶率の推移(15～19歳の女子人口千対)

広島市の10代の人工妊娠中絶率は、平成23年度及び平成24年度において下降しましたが、平成25年度は8.2となっています。



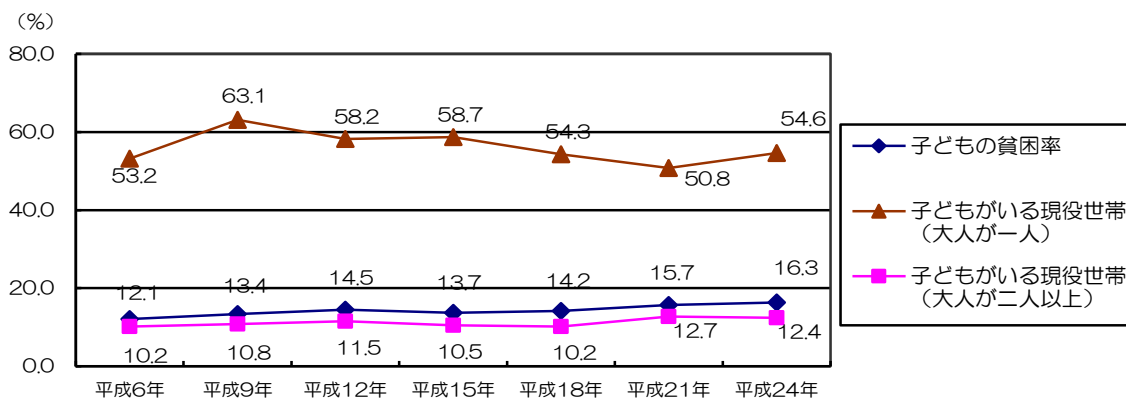
(広島市子ども未来局)

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
広島市 (人口千対)	8.6	9.0	6.8	6.2	8.2

(2) 子どもの貧困

◆貧困率の年次推移(全国)

子どもの貧困率は、近年上昇傾向にあります。とくに、子どもがいる現役世帯のうち、大人が一人の世帯の貧困率は54.6%と、大人が二人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となっています。



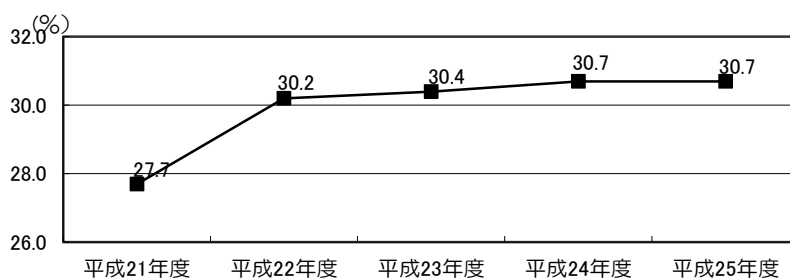
(厚生労働省「国民生活基礎調査」)(単位：%)

区分	平成6年	平成9年	平成12年	平成15年	平成18年	平成21年	平成24年
子どもの貧困率	12.1	13.4	14.5	13.7	14.2	15.7	16.3
子どもがいる現役世帯 (大人が一人)	53.2	63.1	58.2	58.7	54.3	50.8	54.6
子どもがいる現役世帯 (大人が二人以上)	10.2	10.8	11.5	10.5	10.2	12.7	12.4

※「子どもがいる現役世帯」…世帯主が18歳以上65歳未満で子どもがいる世帯

◆就学援助受給者数・受給率の推移

就学援助の受給率は、近年上昇傾向にあります。



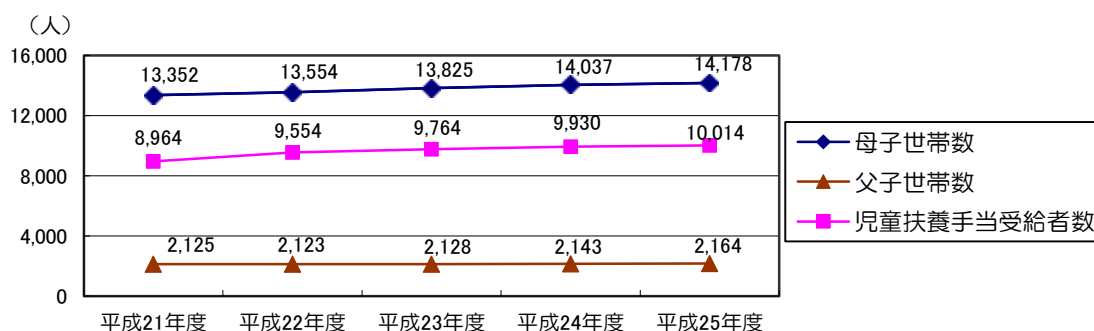
(広島市教育委員会) (単位：人、%)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
受給者数	26,647	28,883	29,081	29,245	29,032
受給率	27.7	30.2	30.4	30.7	30.7

※ 表中は、広島市立小・中学校に係る推移（本市の就学援助制度は、平成22年度から国、県、私立小・中学校に拡大）

◆母子・父子世帯数、児童扶養手当受給者数

母子・父子世帯数及び児童扶養手当受給者数は、緩やかに増加しています。



(広島市子ども未来局) (単位：世帯、人)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
母子世帯数	13,352	13,554	13,825	14,037	14,178
父子世帯数	2,125	2,123	2,128	2,143	2,164
児童扶養手当受給者数	8,964	9,554	9,764	9,930	10,014

※母子・父子世帯とも、平成12年度市実態調査及び住民基本台帳からの推計値。各年度3月末日現在

◆母子・父子世帯の平均世帯人員、年間収入（全国）

平成22年の母子世帯平均収入は291万円と、児童のいる世帯の平均収入の半分以下となっています。

(厚生労働省「全国母子世帯等調査」) (単位：人、万円)

区分	平成 17 年	平成 22 年
母子世帯平均世帯人員	3.30	3.42
父子世帯平均世帯人員	4.02	3.77
母子世帯平均収入 (万円)	213	291
父子世帯平均収入 (万円)	421	455
(参考) 児童のいる世帯平均収入 (万円)	718.0	658.1

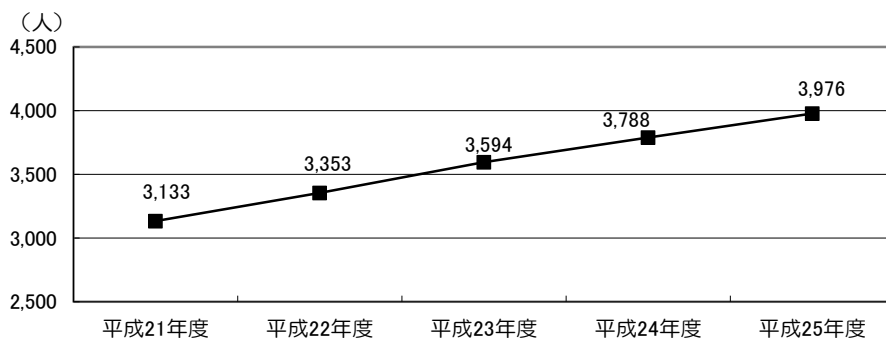
※児童のいる世帯については、「国民生活基礎調査」(厚生労働省)の平均所得金額

(3) 障害のある子ども

広島市の18歳未満の障害児数（手帳所持者数）は、近年増加しています。

また、こども療育センターにおける発達障害に関する新規相談件数は、平成22年度以降年々増加し、平成25年度は1,169件となっています。

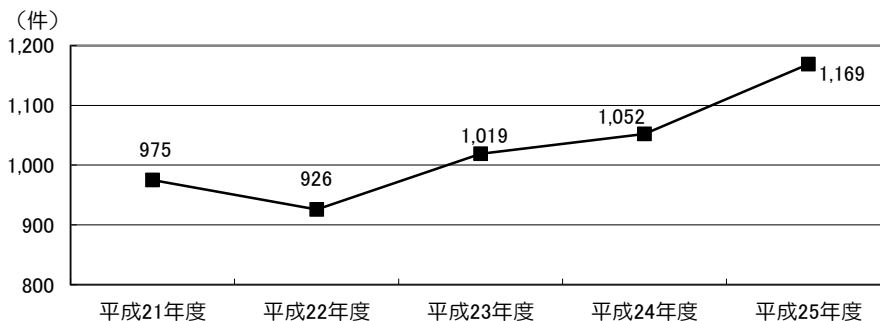
◆18歳未満の障害児数（手帳所持者数）



（広島市健康福祉局）（単位：人）

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
広島市	3,133	3,353	3,594	3,788	3,976

◆発達障害に関する新規相談件数



（広島市こども療育センター）（単位：件）

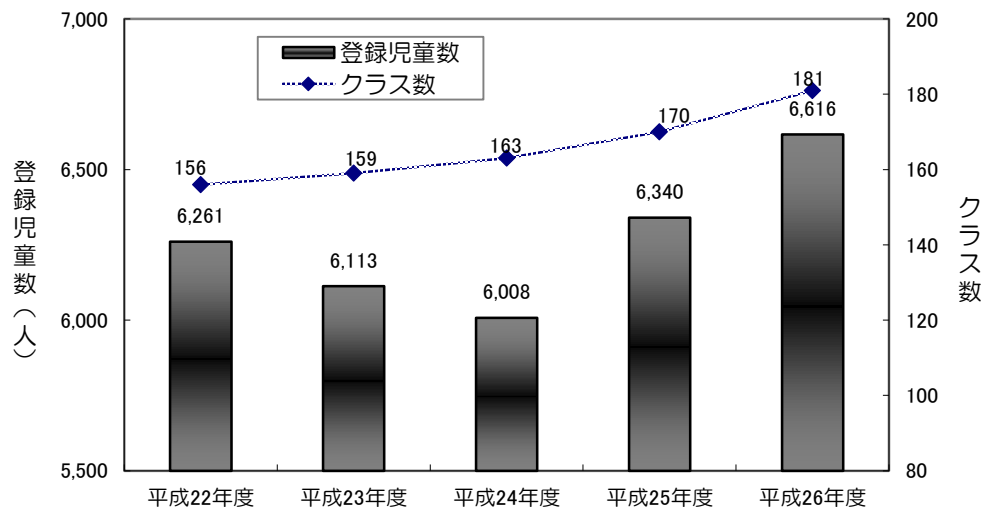
区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
広島市	975	926	1,019	1,052	1,169

※広島市こども療育センターにおいて相談を受けたもの

(4) 子どもの遊び場と居場所

広島市の留守家庭子ども会の登録児童数は、近年減少傾向にありましたが、平成25年度以降は増加しています。

◆留守家庭子ども会のクラス数、登録児童数



(広島市教育委員会) (単位：人・クラス)

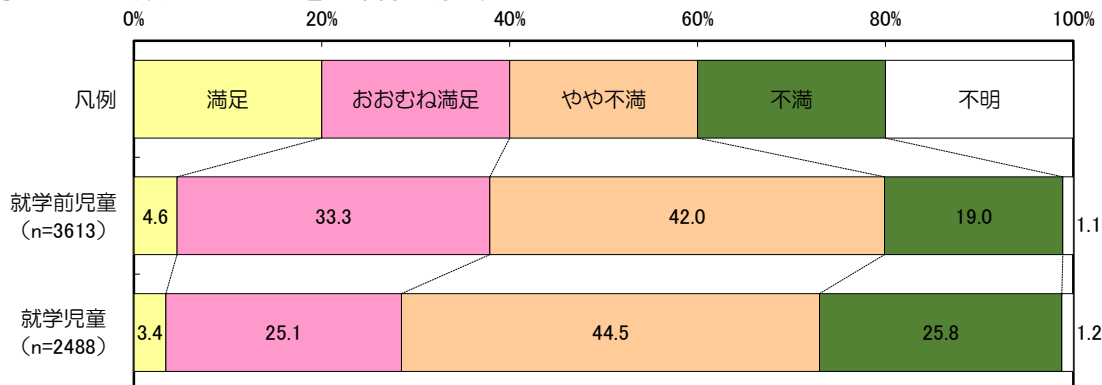
区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
登録児童数	6,261	6,113	6,080	6,340	6,616
クラス数	156	159	163	170	181

◆子どもの遊び環境への満足度

保護者の子ども時代と比べて、子どもの遊び環境に「満足」あるいは「おおむね満足」と回答した人の割合は、就学前児童で37.9%、就学児童で28.5%となっています。

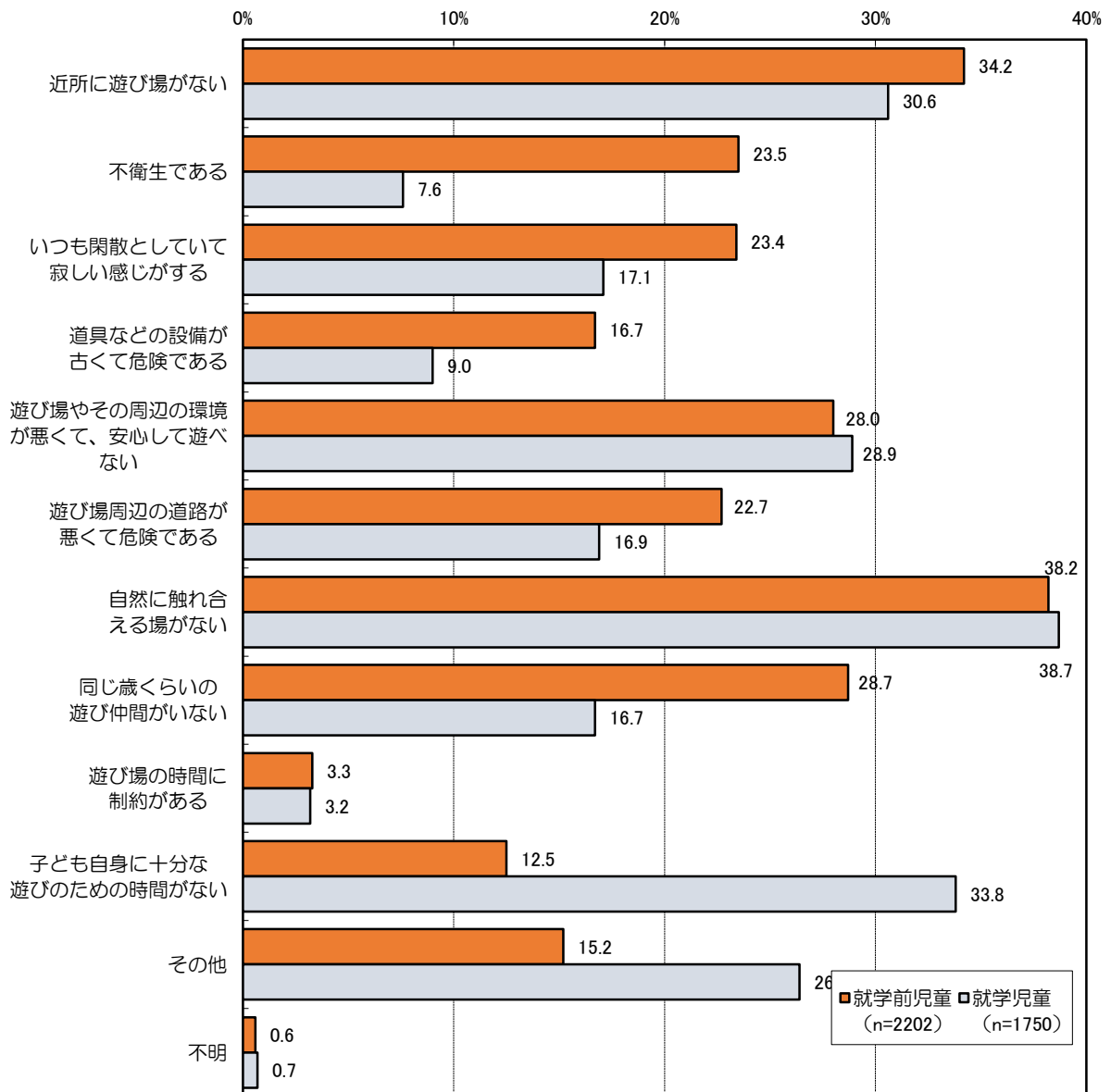
「遊び場への不満な点」としては、「自然に触れ合える場がない」、「近所に遊び場がない」などが多くなっています。

<自身の子ども時代と比べての遊び環境の満足度>



(広島市こども未来局「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」)

<不満の理由（複数回答）>



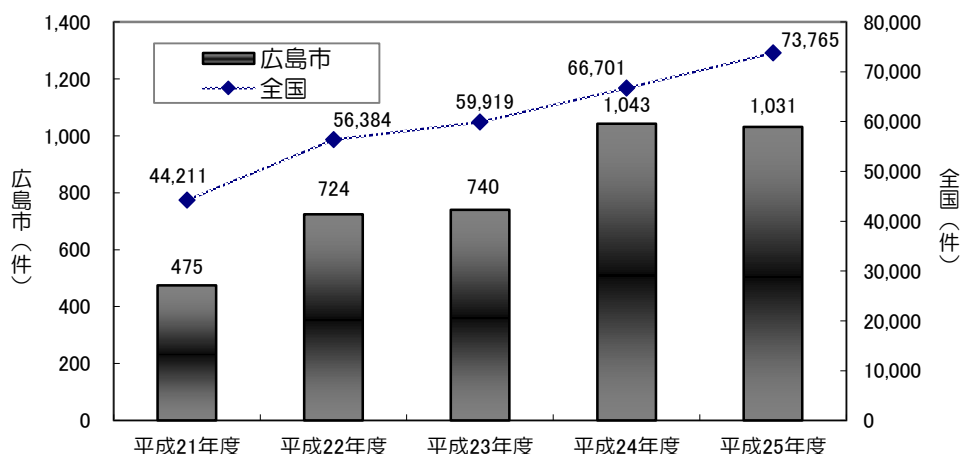
(広島市子ども未来局「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」)

(5) 児童虐待

広島市児童相談所における児童虐待の相談・通告件数は近年急増しており、平成25年度は1,031件で、過去最多のとなった平成24年度とほぼ同様の件数となっています。

相談・通告のあった児童の年齢構成をみると、就学前の子ども（0～5歳）の割合が高く、全体の46.8%となっています。

◆相談・通告件数



(広島市：相談・通告受理件数報告)

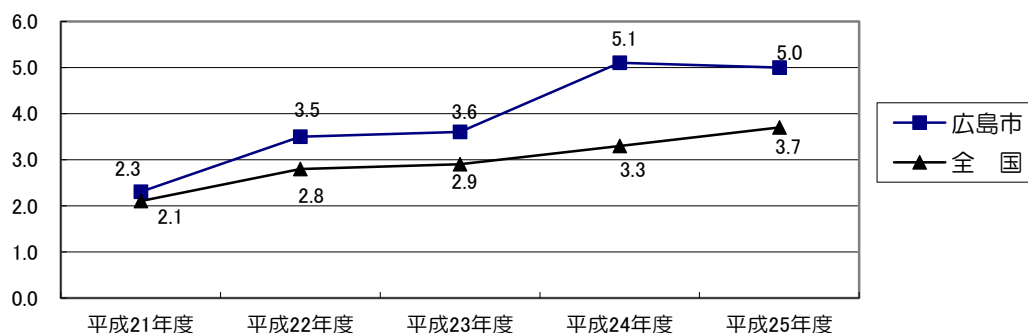
(全国：厚生労働省「児童相談所での児童虐待相談対応件数等」)(単位：件)

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
広島市※1	475	724	740	1,043	1,031
全国	44,211	56,384※2	59,919	66,701	73,765 (速報値)

※1 広島市児童相談所で受理した相談・通告件数

※2 平成22年度の全国は、福島県を除く件数

◆18歳未満人口に対する相談・通告件数の割合（人口千対）



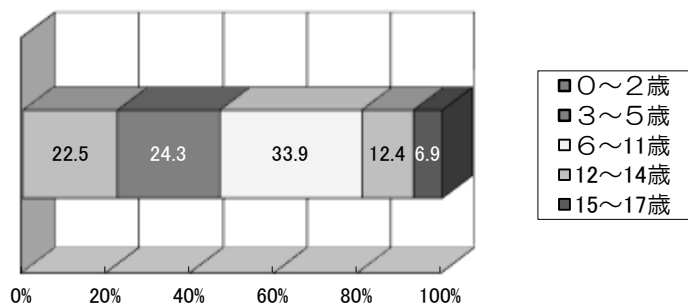
(広島市：相談・通告受理件数報告)

(全国：厚生労働省「児童相談所での児童虐待相談対応件数等」)(単位：件)

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
広島市	2.3	3.5	3.6	5.1	5.0
全国	2.1	※2.8	2.9	3.3	3.7(速報値)

※平成22年度の全国は、福島県を含む全国の推計人口に対する割合

◆相談・通告のあった児童の年齢構成



(相談・通告受理件数報告) (単位：%)

区分	0~2歳	3~5歳	6~11歳 (小学生)	12~14歳 (中学生)	15~17歳 (高校生・その他)
広島市	22.5	24.3	33.9	12.4	6.9

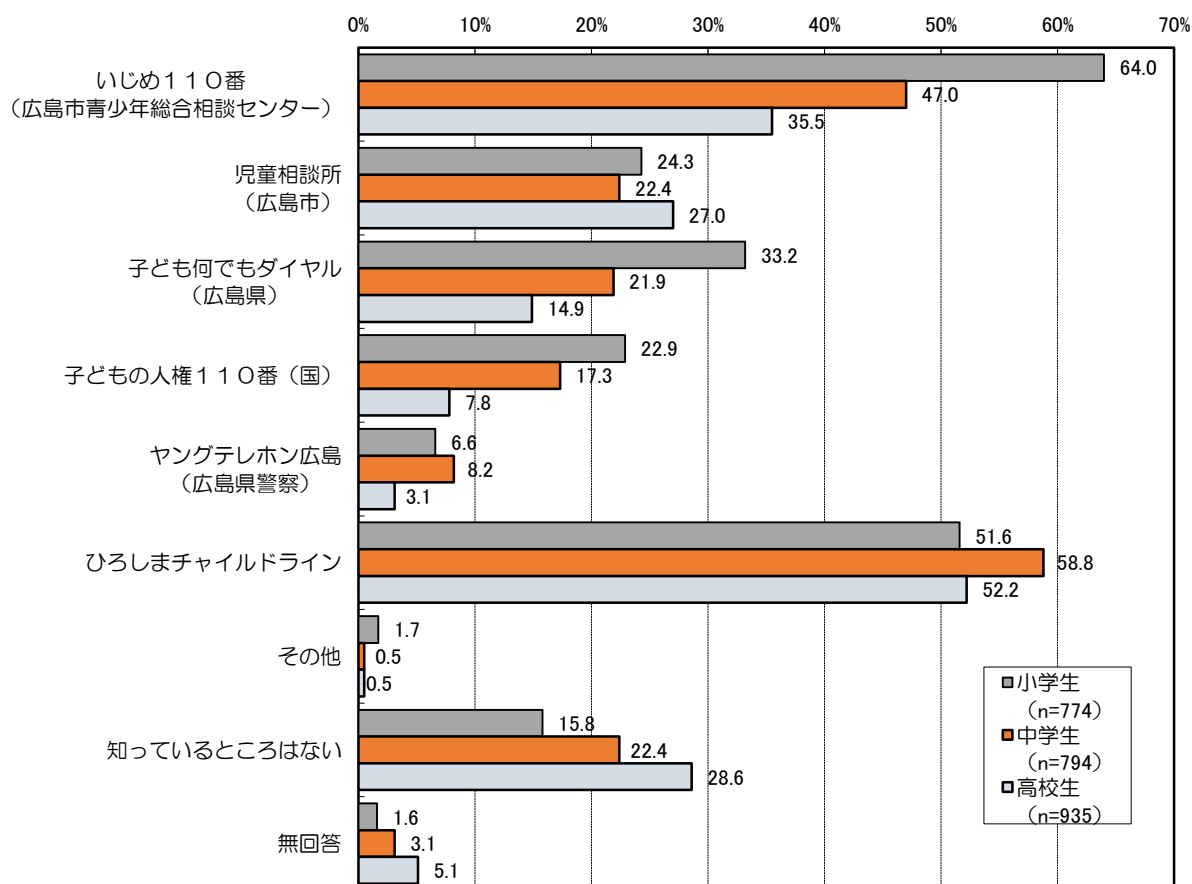
※広島市児童相談所において平成 25 年度に受理した相談・通告件数の年齢区分別の割合

◆子どもの相談窓口

子どもの相談窓口として、小学生では「いじめ110番」、中学生、高校生では「ひろしまチャイルドライン」の認知度が最も高くなっています。また、「知っているところはない」と回答した人は、年代が上がるにつれて高くなっています。

また、相談窓口に望むこととしては、「どんな話でも聞いて、真剣に受け止めてくれる」、「困ったときにいつでも相談できる」などの回答の割合が高くなっています。

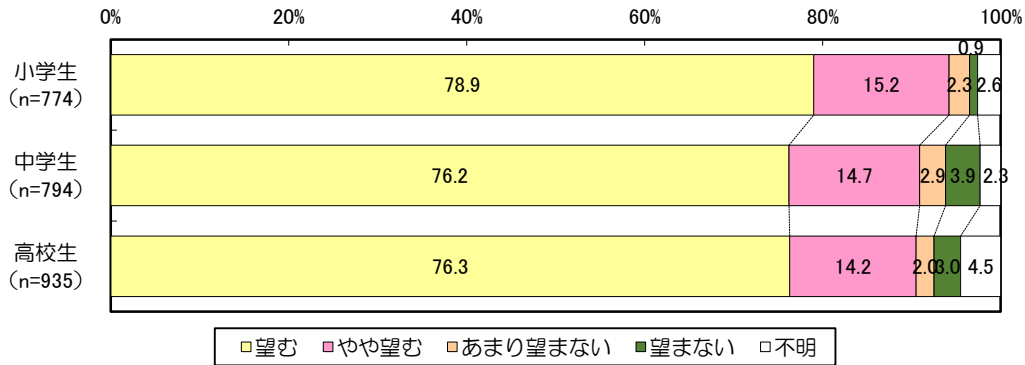
<相談窓口で知っているところ(複数回答)>



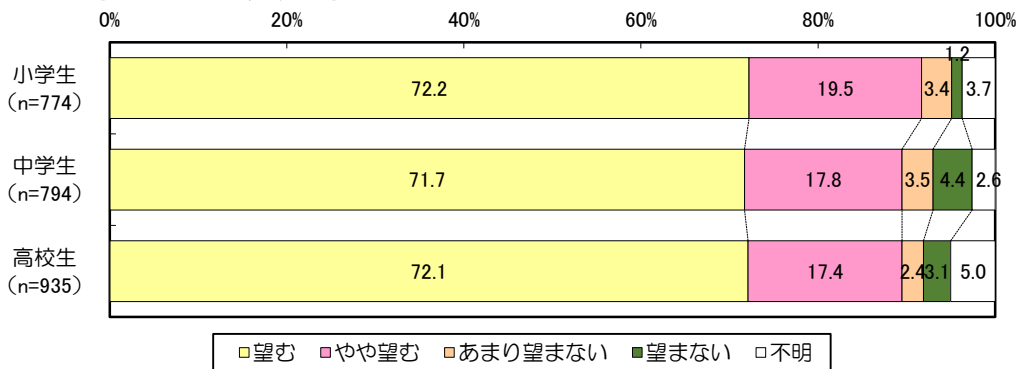
(広島市こども未来局「子どもの生活に関するアンケート調査」)

<相談窓口を利用する場合に望むこと>

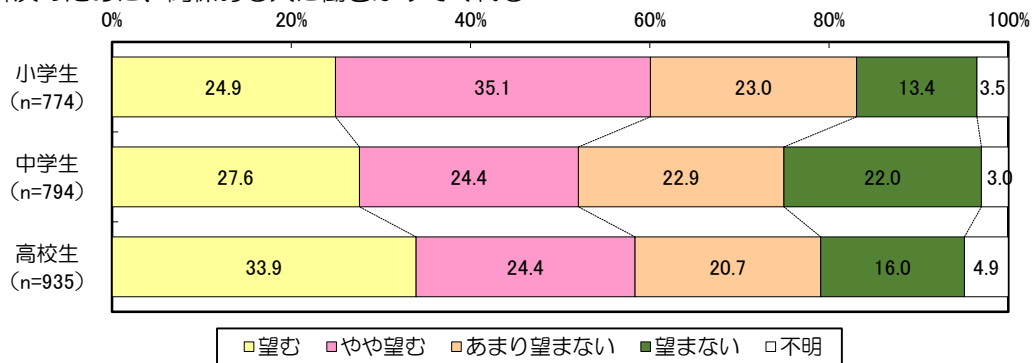
①どんな話でも聞いて、真剣に受け止めてくれる



②困ったときにいつでも相談できる



③解決のために、関係ある人に働きかけてくれる

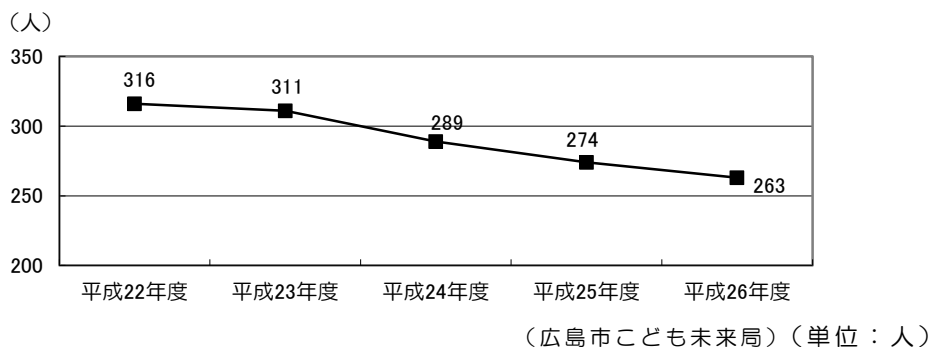


(広島市こども未来局「子どもの生活に関するアンケート調査」)

(6) 社会的養護

広島市の児童養護施設在籍者数は減少傾向にあります。一方で、里親委託児童数、登録里親数は年々増加傾向にあります。

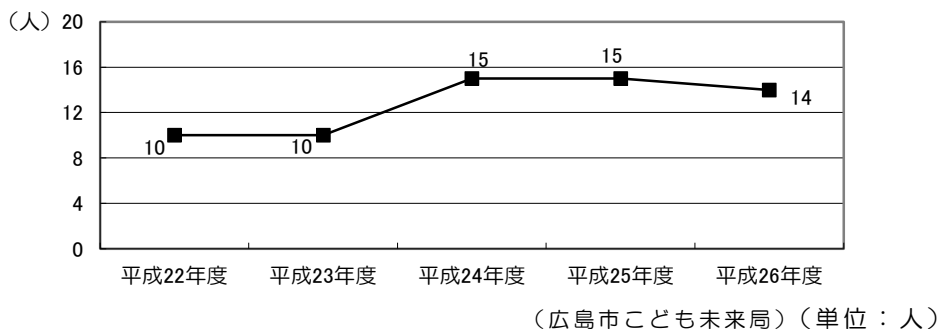
◆児童養護施設在籍者数



区分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
広島市	316	311	289	274	263

※各年度 4 月 1 日現在

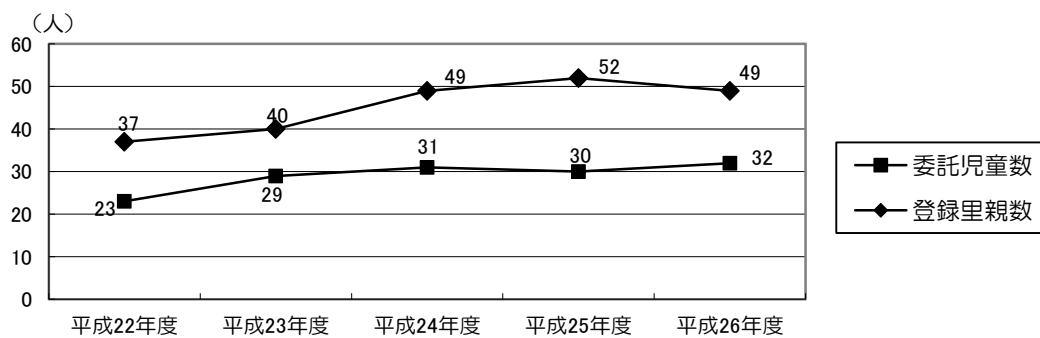
◆乳児院在籍者数



区分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
広島市	10	10	15	15	14

※各年度 4 月 1 日現在

◆里親委託児童数、登録里親数

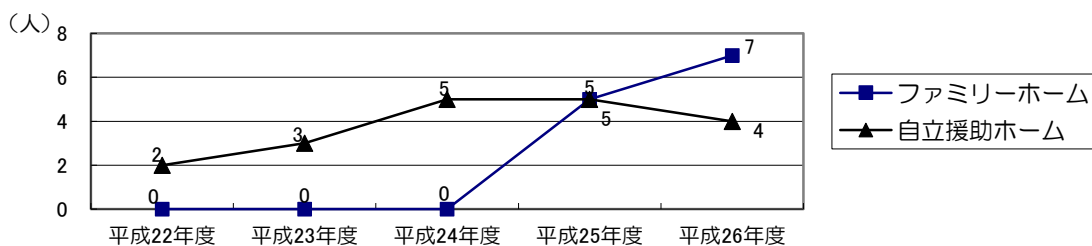


(広島市こども未来局) (単位：人)

区分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
委託児童数	23	29	31	30	32
登録里親数	37	40	49	52	49

※各年度 4 月 1 日現在

◆ファミリーホーム、自立援助ホーム在籍者数



(広島市こども未来局) (単位：人)

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
ファミリーホーム	0	0	0	5	7
自立援助ホーム	2	3	5	5	4

※各年度4月1日現在

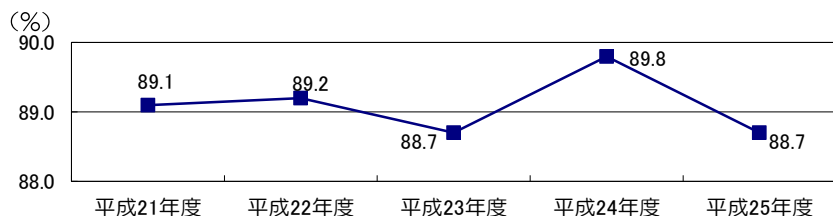
(7) 子どもと親の健康づくり

ア 子育てに対する不安等

4か月児健康相談で、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があると回答した親の割合は、平成24年度においては89.8%と、平成21年度以降で最も高くなっていましたが、平成25年度は再び下降しています。

一方で、子育てをされていていららすることが多いと回答した人、子育てのことで不安に思ったり悩んだりすることがあると回答した人の割合は、平成24年度まで緩やかに下降していましたが、平成25年度はそれぞれ上昇しています。

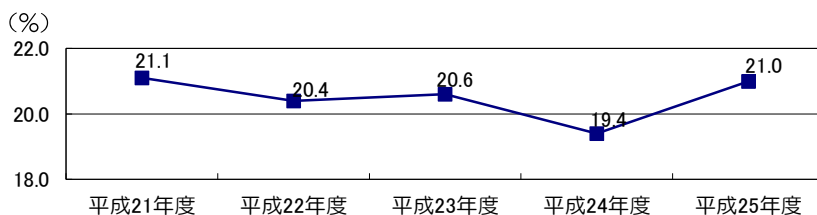
◆ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があると回答した親の割合



(広島市こども未来局) (単位：%)

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
広島市	89.1	89.2	88.7	89.8	88.7

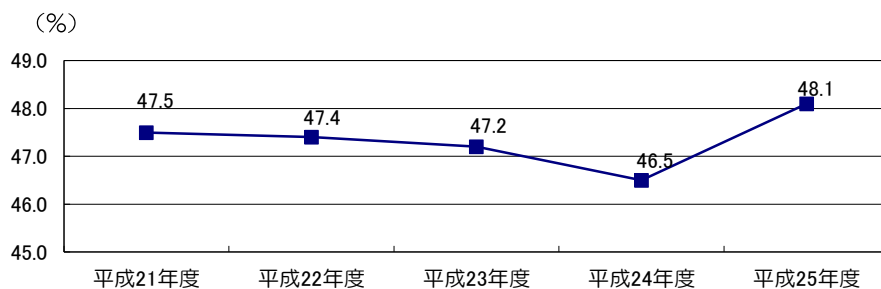
◆子育てをされていていららすることが多いと回答した人の割合



(広島市こども未来局) (単位：%)

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
広島市	21.1	20.4	20.6	19.4	21.0

◆子育てのことで不安に思ったり、悩んだりすることがあると回答した人の割合



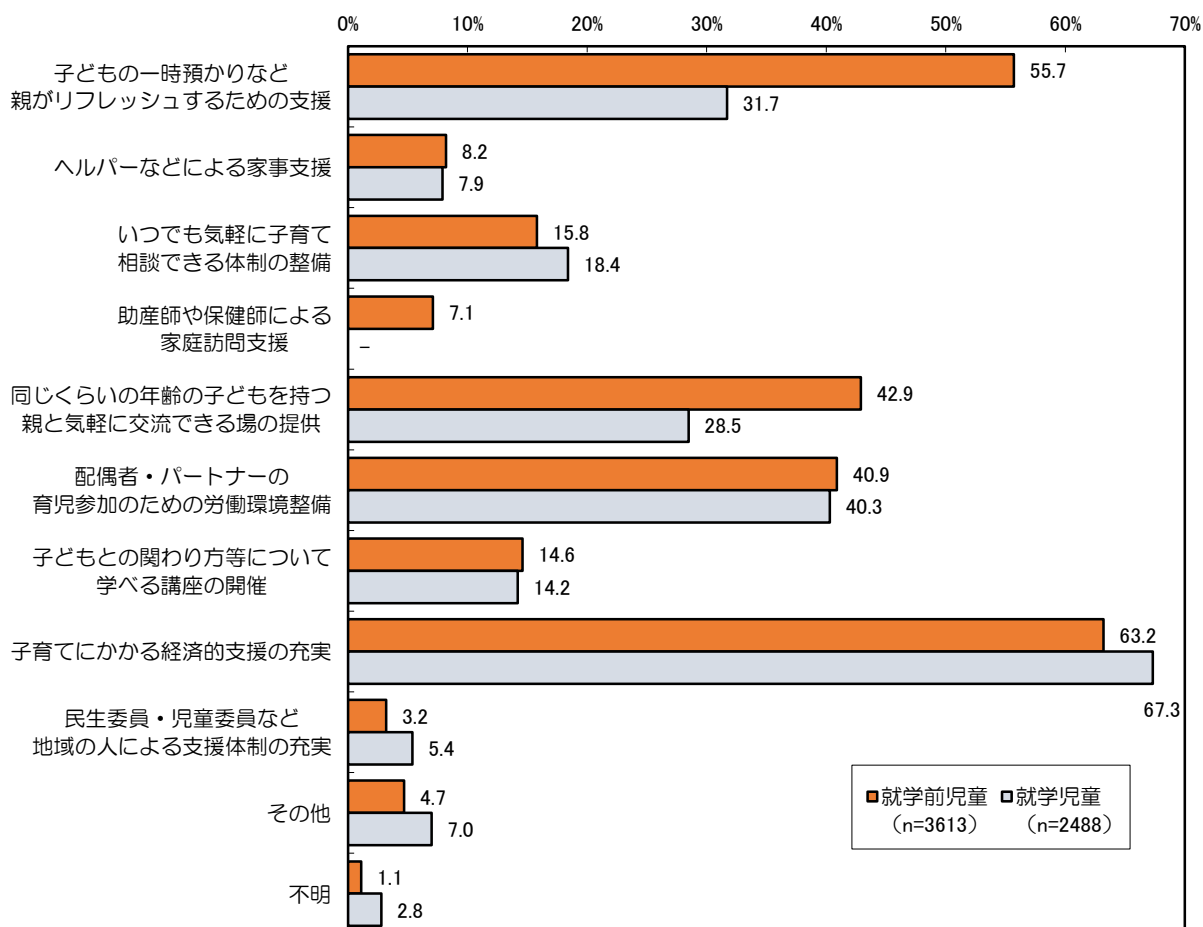
(広島市こども未来局) (単位：%)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
広島市	47.5	47.4	47.2	46.5	48.1

◆子育ての精神的負担を減らすための支援

子育ての精神的負担を減らすために必要な支援として、6割以上が「経済的支援」と回答しています。

<子育ての精神的負担を減らすために必要な支援> (複数回答)

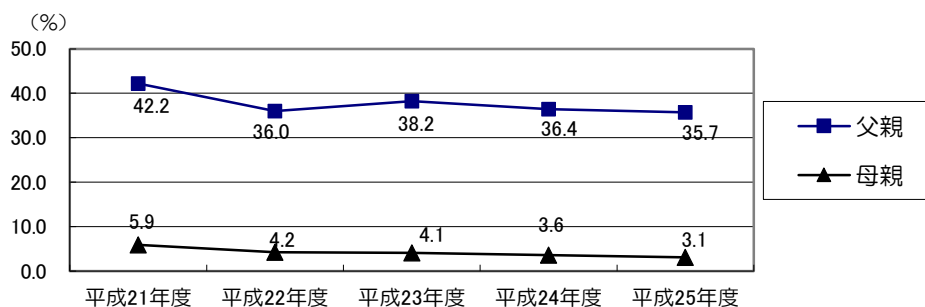


(広島市こども未来局「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」)

イ 乳幼児をもつ保護者の喫煙率

広島市の平成 25 年度の乳幼児をもつ保護者の喫煙率は、父親が 35.7%、母親が 3.1%と、平成 21 年度以降で最も低くなっています。

◆乳幼児をもつ保護者の喫煙率



(広島市健康福祉局) (単位：%)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
父親	42.2	36.0	38.2	36.4	35.7
母親	5.9	4.2	4.1	3.6	3.1

ウ 小・中学生の朝食摂取状況

広島市の小・中学生で、朝食を「あまり食べない」、「食べない」という児童生徒はほぼ横ばいで推移しています。

◆小・中学生の朝食摂取状況の割合

(広島市教育委員会) (単位：%)

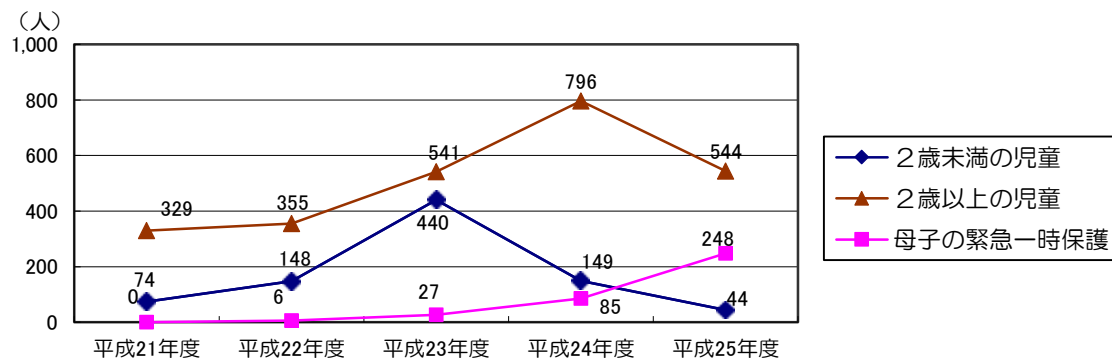
区分	平成 24 年 6 月		平成 25 年 6 月		平成 26 年 6 月	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
毎朝食べる	91.2	86.3	90.6	86.2	89.6	86.1
ほとんど食べる	6.2	8.8	6.5	8.8	7.1	8.5
あまり食べない	2.1	3.4	2.4	3.2	2.5	3.8
食べない	0.5	1.5	0.6	1.8	0.8	1.6

※市立の小学校 5 年生、中学校 2 年生を対象に調査したもの

(8) 子育て家庭に対する養育支援

◆子育て短期支援事業利用延べ日数

広島市の子育て短期支援事業の利用延べ日数は、近年増加傾向にありましたが、平成 25 年度は前年度に比べて減少しています。一方で、緊急一時的に保護を必要とする母子を母子生活支援施設で預かった日数は、年々増加しています。

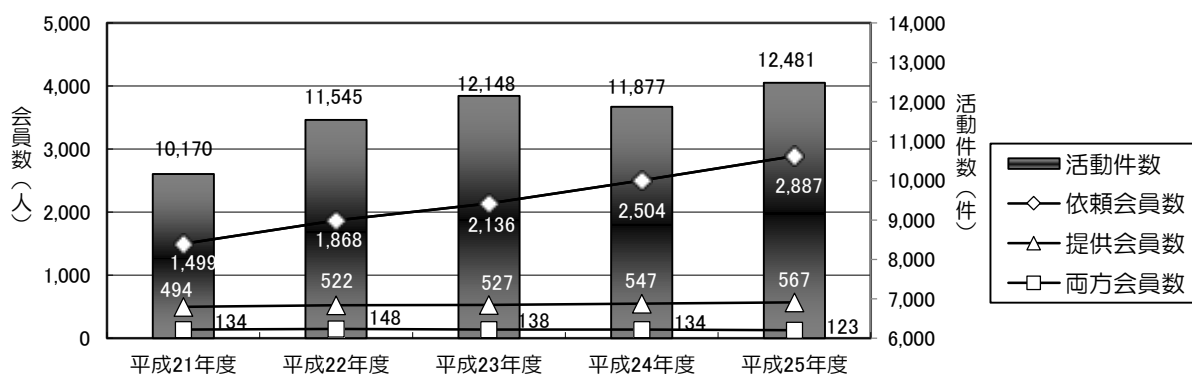


(広島市こども未来局) (単位：日)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
2歳未満の児童	74	148	440	149	44
2歳以上の児童	329	355	541	796	544
母子の緊急一時保護	0	6	27	85	248

◆ファミリーサポートセンター事業における会員登録数、活動件数

広島市のファミリーサポートセンター事業の活動件数は増加傾向にあります。依頼会員数は年々増加していますが、提供会員数の増加はわずかです。

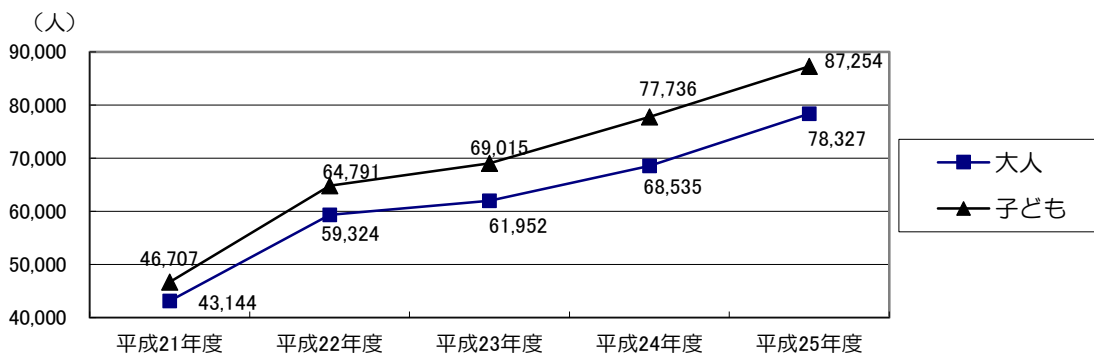


(広島市こども未来局) (単位：人、件)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
依頼会員数	1,499	1,868	2,136	2,504	2,887
提供会員数	494	522	527	547	567
両方会員数	134	148	138	134	123
活動件数	10,170	11,545	12,148	11,877	12,481

◆常設型オープンスペースの参加者数

広島市の常設型オープンスペースの参加者数は、平成 21 年度は大人 43,144 人、子ども 46,707 人でしたが、年々増加し、平成 25 年度は大人 78,327 人、子ども 87,254 人となっています。



(広島市こども未来局)

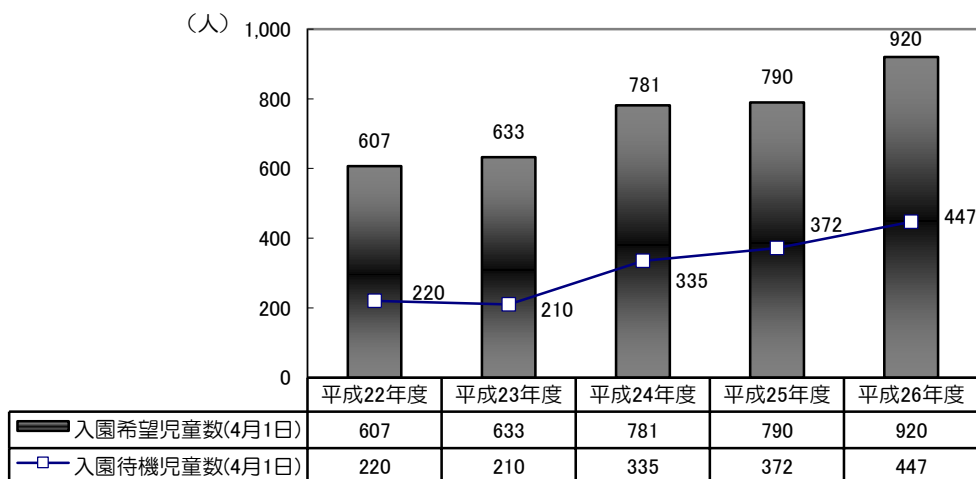
区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
設置数	6	8	8	10	11
大人 (人)	43,144	59,324	61,952	68,535	78,327
子ども (人)	46,707	64,791	69,015	77,736	87,254

※平成 24 年度からは民間の団体が運営する公募型常設オープンスペースを含む。

(9) 教育・保育施設

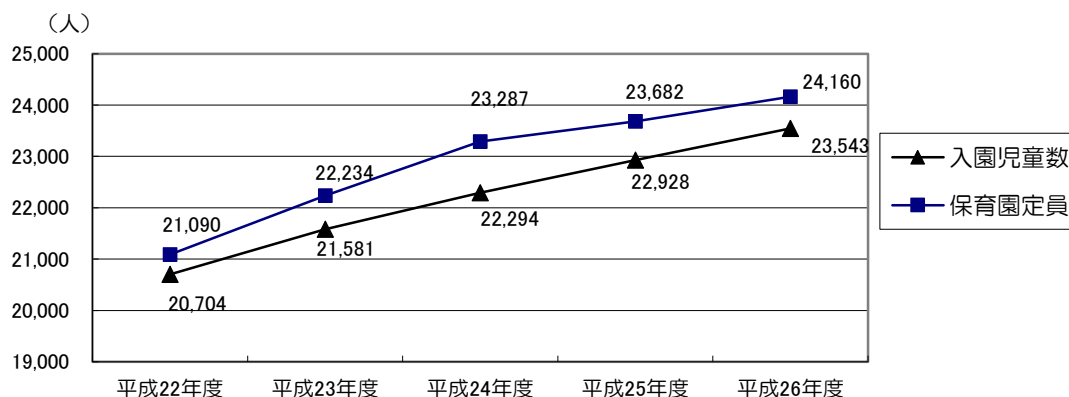
◆保育園入園希望児童数、入園待機児童数

広島市の4月1日現在の入園待機児童数は、入園希望児童数とともに増加しており、平成 26 年度は 447 人となっています。



◆保育園定員及び入園児童数

広島市の入園児童数は、平成 22 年度は 20,704 人でしたが、年々増加し、平成 26 年度は 23,543 人となっています。また、保育園定員は、平成 22 年度は 21,090 人でしたが、年々増加し、平成 26 年度は 24,160 人となっています。



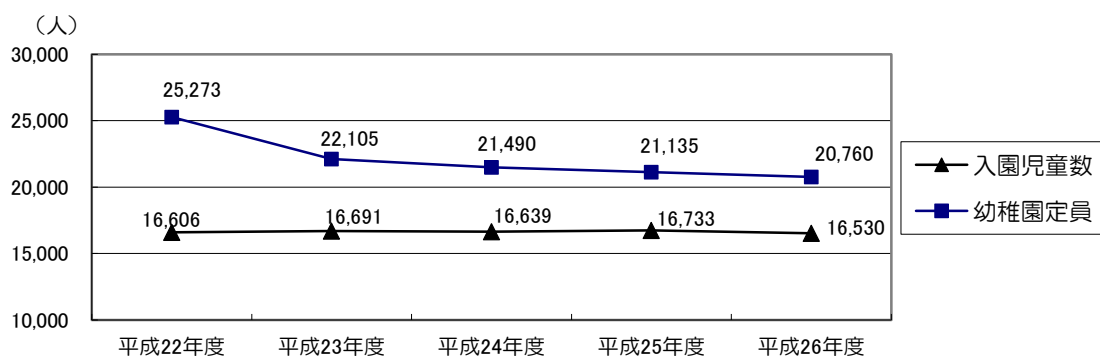
(広島市子ども未来局) (単位：人)

区分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
入園児童数	20,704	21,581	22,294	22,928	23,543
保育園定員	21,090	22,234	23,287	23,682	24,160

※各年度 4 月 1 日現在

◆幼稚園定員及び入園児童数

広島市の幼稚園入園児童数は、平成 22 年度以降ほぼ横ばいで推移しており、平成 26 年度は 16,530 人となっています。また、幼稚園定員は、平成 22 年度は 25,273 人でしたが、年々減少し、平成 26 年度は 20,760 人となっています。



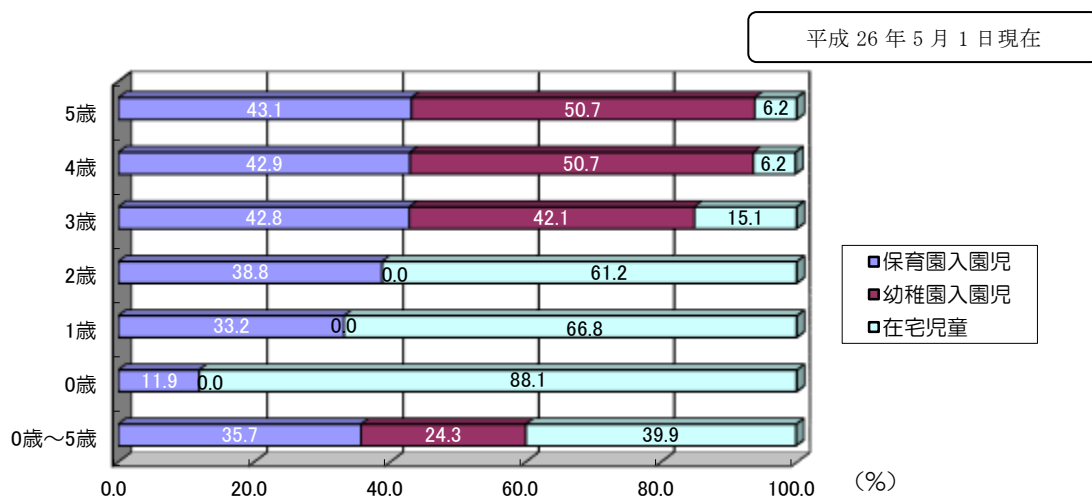
(文部科学省「学校基本調査」) (単位：人)

区分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
入園児童数	16,606	16,691	16,639	16,733	16,530
幼稚園定員	25,273	22,105	21,490	21,135	20,760

※各年度 5 月 1 日現在

◆保育園・幼稚園の入園状況

広島市の6歳未満の子ども全体で見ると、保育園入園児が35.7%、幼稚園入園児が24.3%、自宅等で過ごしている子どもが39.9%となっています。



※広島市住民基本台帳（平成26年5月1日現在）の年齢別人数に対する割合
在宅児童は、保育園、幼稚園入園児数を除いた人数の割合

(10) 多様な保育サービス

広島市の延長保育、一時預かり事業、病児・病後児保育、休日保育を実施する施設の数、平成22年度以降いずれも増加しています。

◆延長保育、一時預かり事業、病児・病後児保育、休日保育実施状況

（広島市こども未来局）

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
延長保育	実施園数	109園	115園	126園	131園	136園
	定員	3,742人	3,949人	4,201人	4,333人	4,413人
一時預かり事業		46園	51園	62園	67園	70園
病児・病後児保育		9施設	9施設	10施設	10施設	11施設
休日保育		3園	4園	4園	4園	4園

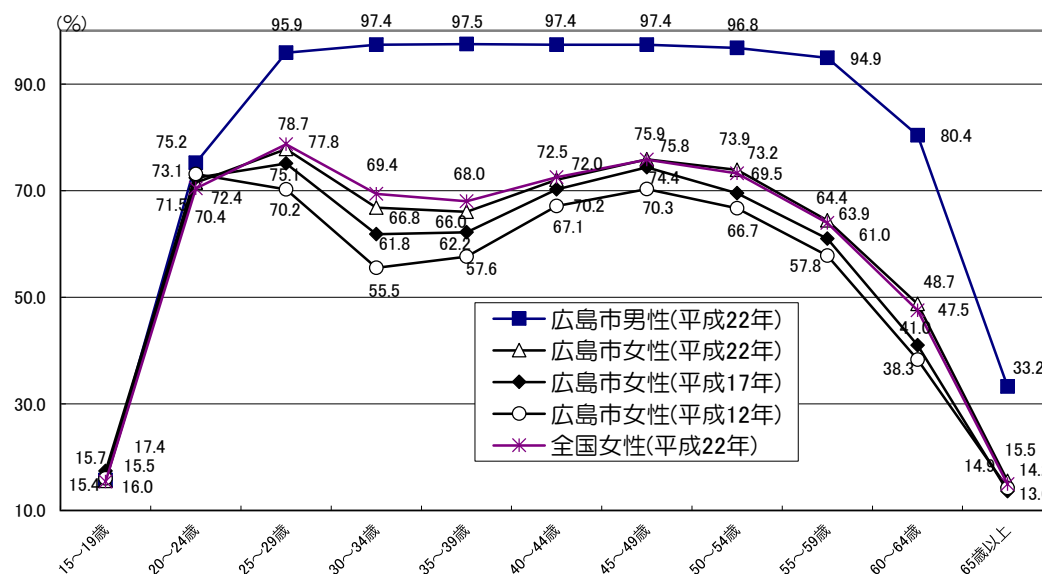
※各年度4月1日現在

(11) 就労

◆年齢階層別の労働力率

広島市の年齢階層別の労働力率をグラフで表すと、男性は台形を描いているのに対し、女性はM字型になっており、女性が結婚や出産、子育てのために一旦仕事をやめ、子育てが一段落した後に再び仕事についている状況を示しています。

M字のくぼみは年々浅くなってきており、くぼみの底は、平成12年、平成17年は「30～34歳」であったのに対し、平成22年には「35～39歳」に移行しています。



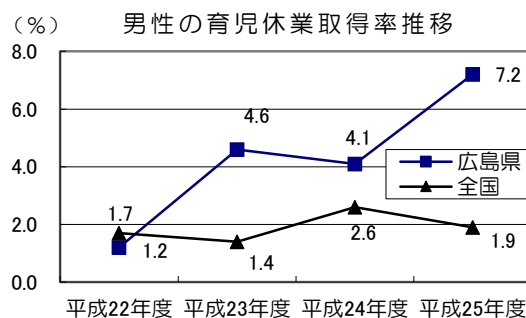
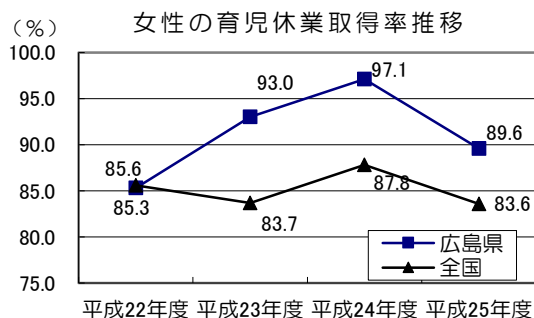
(国勢調査)(単位:%)

区分	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上
広島市男性(平成22年)	15.7	75.2	95.9	97.4	97.5	97.4	97.4	96.8	94.9	80.4	33.2
広島市女性(平成22年)	15.5	71.5	77.8	66.8	66.0	72.0	75.9	73.9	64.4	48.7	15.5
広島市女性(平成17年)	17.4	72.4	75.1	61.8	62.2	70.2	74.4	69.5	61.0	41.0	13.6
広島市女性(平成12年)	16.0	73.1	70.2	55.5	57.6	67.1	70.3	66.7	57.8	38.3	14.2
全国女性(平成22年)	15.4	70.4	78.7	69.4	68.0	72.5	75.8	73.2	63.9	47.5	14.9

労働力率(%) = 「労働力人口」 ÷ 「15歳以上人口(労働力状態不詳を除く)」 × 100

◆育児休業取得率

広島県の女性の育児休業取得率は上昇傾向にありましたが、平成 25 年度は 89.6%と前年度に比べて低くなっています。一方で、男性の育児休業取得率は、平成 25 年度で 7.2%と前年度に比べて高くなっています。



(広島県「広島県職場環境実態調査」)(単位：%)

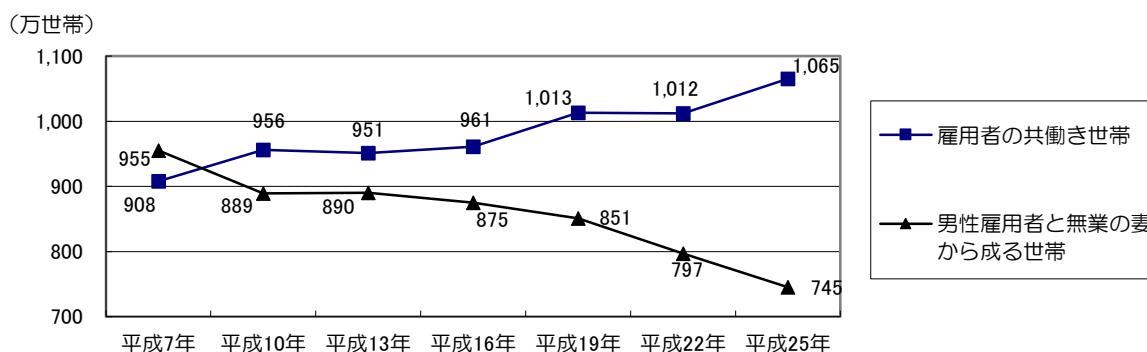
区分		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
女性	広島県	85.3	97.1	93.0	89.6
	全国	85.6	87.8	83.7	83.6
男性	広島県	1.2	4.1	4.6	7.2
	全国	1.7	2.6	1.4	1.9

※広島県内の本所事業所の事業主を対象に調査したもの

※区分は、調査公表年度

◆共働き等世帯数の推移（全国）

夫婦共に雇用者の共働き世帯は、平成 9 年以降、男性雇用者と無業の妻から成る世帯数を上回り、平成 25 年には雇用者の共働き世帯が 1,065 万世帯、男性雇用者と無業の妻から成る世帯が 745 万世帯となっています。



(内閣府「男女共同参画白書」)(単位：万世帯)

区分	平成 7 年	平成 10 年	平成 13 年	平成 16 年	平成 19 年	平成 22 年	平成 25 年
雇用者の共働き世帯	908	956	951	961	1,013	1,012	1,065
男性雇用者と無業の妻から成る世帯	955	889	890	875	851	797	745

※平成 13 年までは総務庁「労働力調査特別調査」、平成 14 年以降は総務省「労働力調査（詳細集計）」（年平均）より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査（詳細集計）」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。

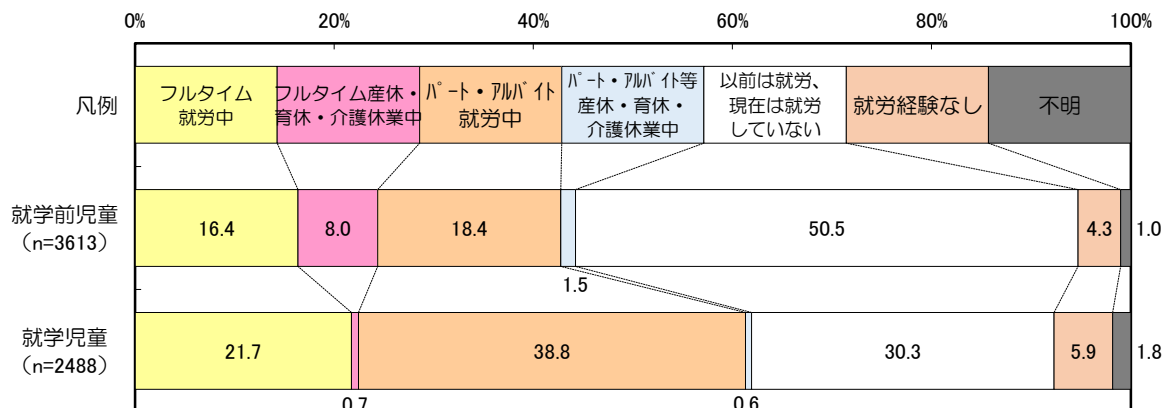
※「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者（非労働力人口及び完全失業者）の世帯

※「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯

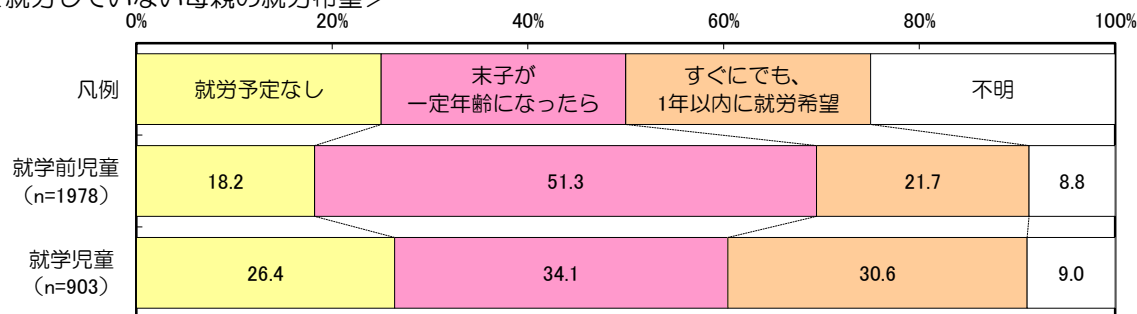
◆母親の就労状況と就労していない母親の就労希望

母親が「就労している（産休・育休・介護休暇中を含む。）」と回答した人の割合は、就学前児童で44.3%、就学児童で61.8%となっています。就労していない場合でも、就学前児童の母親の73.0%、就学児童の母親の64.7%が将来的に就労する希望があると回答しています。

<母親の就労状況>



<就労していない母親の就労希望>

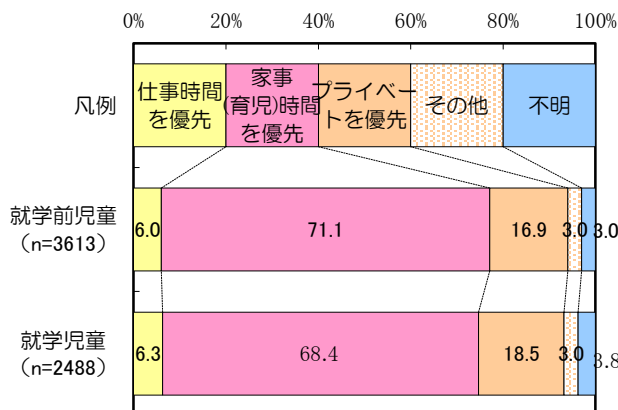


(広島市子ども未来局「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」)

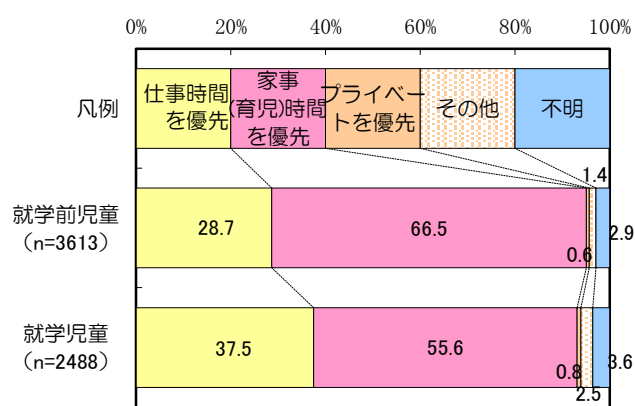
◆仕事時間、家事（育児）時間、プライベートの生活時間の優先度

「仕事時間」の優先度は、希望に比べ、現実において割合が高くなっています。

<希望>



<現実>

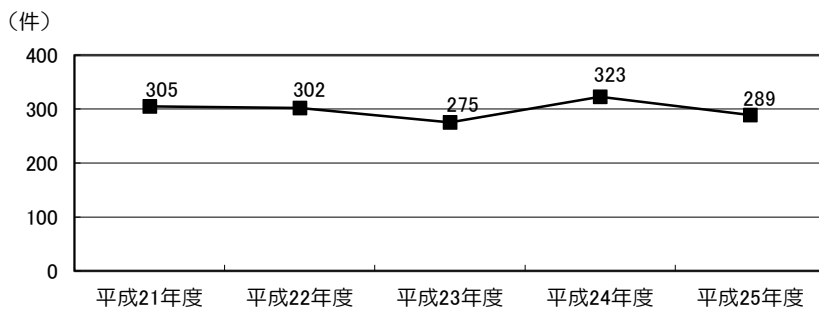


(広島市子ども未来局「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」)

(12) 安全・安心なまちづくり

◆不審者情報の集計

広島市の不審者情報の件数は、平成 24 年度は 323 件と、平成 21 年度以降で最も多くなっていましたが、平成 25 年度は再び減少し、289 件となっています。



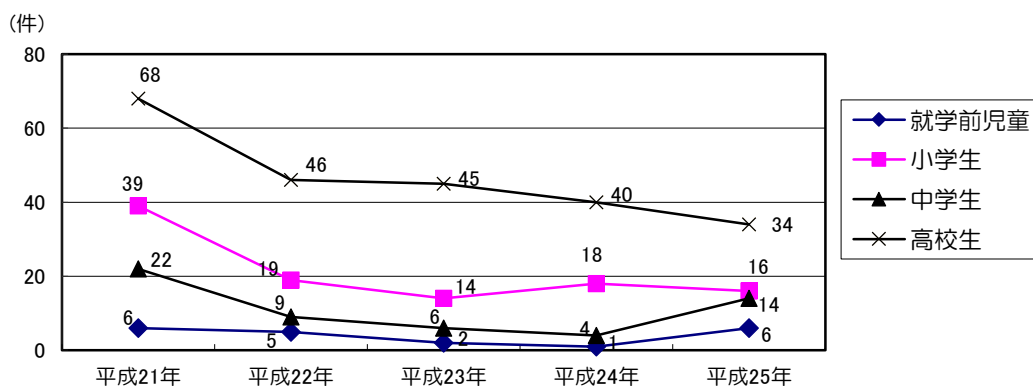
(広島市教育委員会) (単位：件)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
広島市	305	302	275	323	289

※市立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校から報告のあったもの

◆交通事故発生状況（第 1 当事者のみ）

広島市における子どもの交通事故発生件数は、平成 21 年は就学前児童及び小・中・高校生全体で 135 件でしたが、年々減少し、平成 24 年は 63 件となりましたが、平成 25 年はわずかに増加し、70 件となっています。



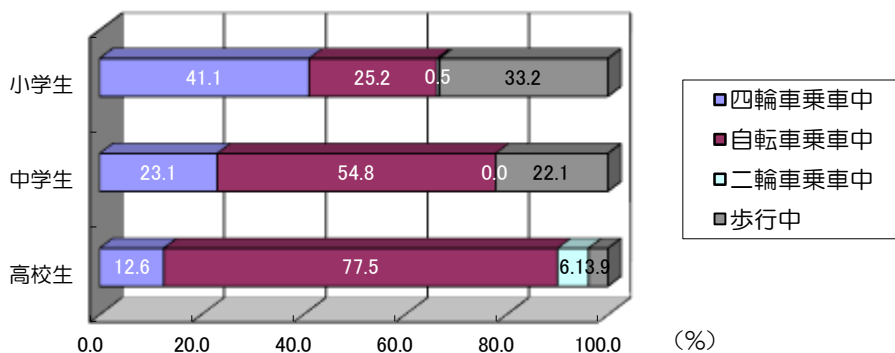
(広島市道路交通局) (単位：件)

区分	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
就学前児童	6	5	2	1	6
小学生	39	19	14	18	16
中学生	22	9	6	4	14
高校生	68	46	45	40	34
計	135	79	67	63	70

※市域で発生した事故件数。第 1 当事者のみの数字

◆平成25年における交通事故の特徴（死傷者の状態別）

中学生、高校生においては自転車乗車中の事故が最も多く、中学生は54.8%、高校生は77.5%となっています。



（広島市道路交通局）（単位：人）

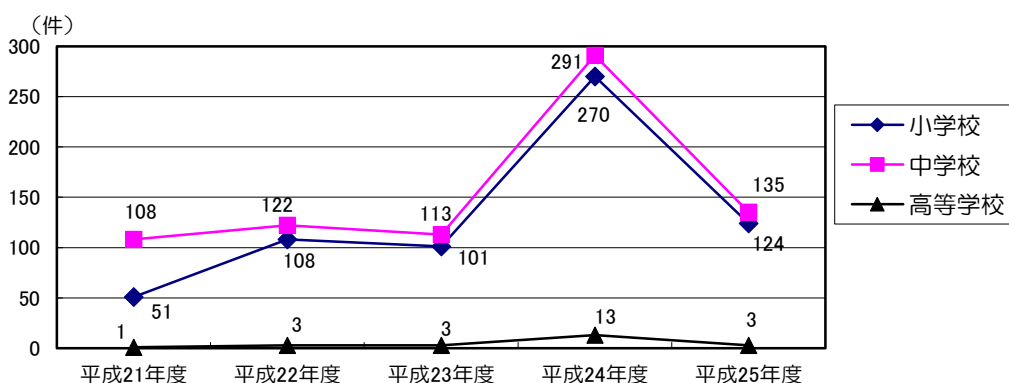
区分	四輪車乗車中	自転車乗車中	二輪車乗車中	歩行中	計
小学生	83 (41.1%)	51 (25.2%)	1 (0.5%)	67 (33.2%)	202 (100.0%)
中学生	24 (23.1%)	57 (54.8%)	0 (0.0%)	23 (22.1%)	104 (100.0%)
高校生	29 (12.6%)	179 (77.5%)	14 (6.1%)	9 (3.9%)	231 (100.0%)

※（ ）内の数値は構成比

(13) いじめ、不登校、非行等

◆いじめ認知件数の推移

広島市のいじめの認知件数は、平成24年度は、いじめの問題に対する社会的関心の高まりにより、児童生徒や保護者の学校への相談件数が増え、大幅に増加しましたが、平成25年度は減少し、小・中・高等学校全体で262件となっています。



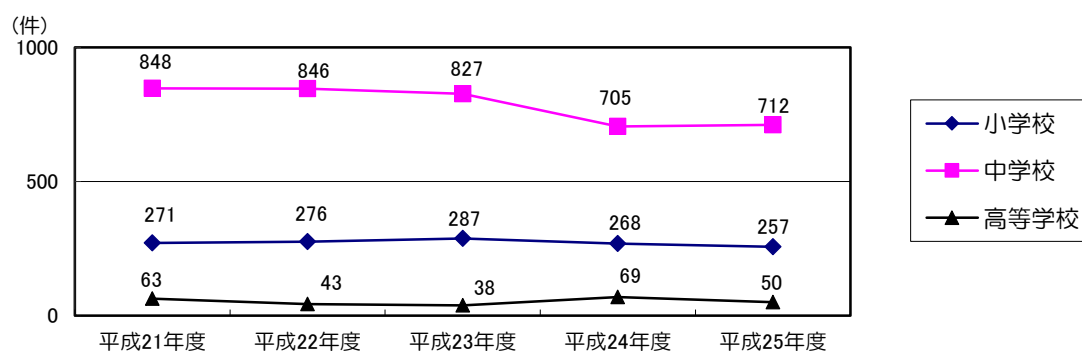
（広島市教育委員会）（単位：件）

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
小学校	51	108	101	270	135
中学校	108	122	113	291	124
高等学校	1	3	3	13	3
合計	160	233	217	574	262

※市立の小学校、中学校、高等学校を対象に調査したもの

◆不登校児童生徒数の推移

広島市の不登校児童生徒数は、平成 25 年度は、小・中・高等学校全体で 1,019 人であり、減少傾向にあります。



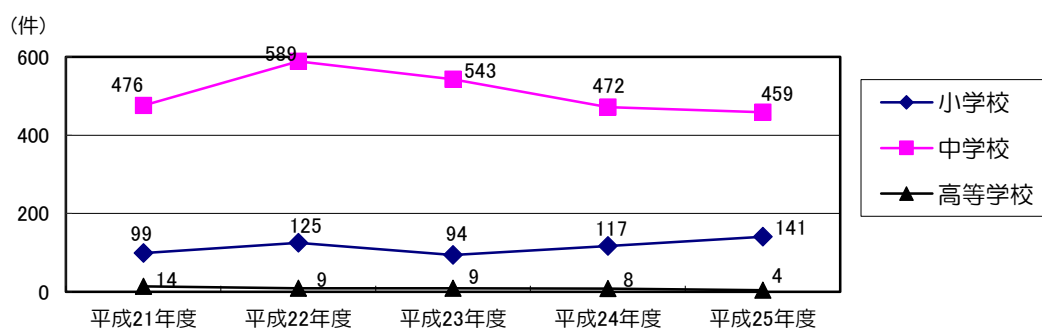
(広島市教育委員会) (単位：件)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
小学校	271	276	287	268	257
中学校	848	846	827	705	712
高等学校	63	43	38	69	50
合 計	1,182	1,165	1,152	1,042	1,019

※市立の小学校、中学校、高等学校を対象に調査したもの

◆暴力行為発生数の推移

広島市の暴力行為発生件数は、平成 25 年度は、小・中・高等学校全体で 604 件であり、中学校においては平成 22 年度以降年々減少しています。



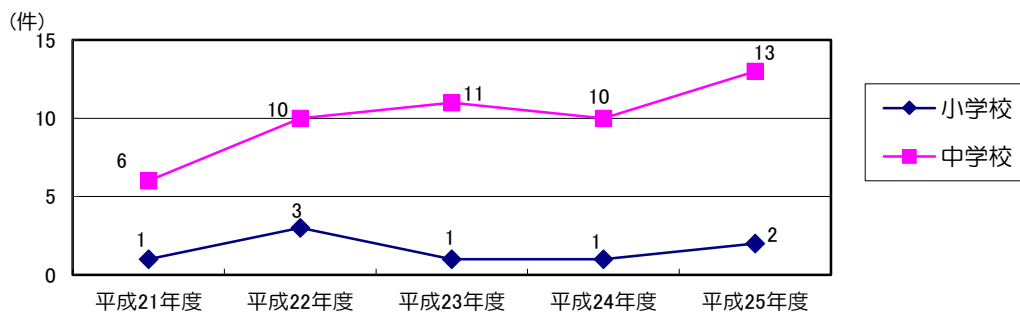
(広島市教育委員会) (単位：件)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
小学校	99	125	94	117	141
中学校	476	589	543	472	459
高等学校	14	9	9	8	4
合 計	589	723	646	597	604

※市立の小学校、中学校、高等学校を対象に調査したもの

◆ひきこもり状態の児童生徒数

広島市のひきこもり状態にある児童生徒数は、平成 25 年度は、小・中学校全体で 15 人となっています。



(広島市教育委員会) (単位：人)

区分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
小学校	1	3	1	1	2
中学校	6	10	11	10	13
計	7	13	12	11	15

※市立の小学校、中学校を対象に調査したもの。各年5月末日現在で、120日以上継続して学校を欠席している(ただし、小学校1年生及び中学校1年生については、4月・5月全休している)児童生徒で、一日中、家に引きこもっている児童生徒。